

消化器外科

○ 消化器外科の概要

1. 消化器外科の特色

将来の専門性にかかわらず、日常診療で頻繁に遭遇する疾患や病態に適切な対応ができるように、外科医療チームの一員として診療に携わりながら、外科疾患への対応、周術期管理を研修する。外科的治療の適応、有効性と限界、それぞれの手術術式を理解しながら、プライマリ・ケアの実践に必要な外科的基本手技を身につける。将来外科系を志望する医師に対してはこれら導入的な基礎知識や基本的手技の他、手術の一部または全部を術者として研修する。

「包括的がんセンター」は悪性腫瘍の診療を専門とする全国でも屈指の施設であり、スタッフは全国から参集した医師により構成され、その部門のひとつとして消化器病センターがある。

消化器病センターは縦割りの構造にこだわらず、患者さんを中心において最も適した治療方針を立て、治療を進めることを第一にしている。内科、外科はもとより、病理診断科、放射線科、緩和医療科などが同じ目標に向かって診療を行うことを掲げている。なかでも外科的治療を担当する消化器外科は上部消化管、下部消化管、肝胆膵の各臓器専門チームに分かれているが、若い研修医はすべての臓器の外科的疾患の診療を経験する。

埼玉医科大学国際医療センター 消化器病センター 消化器外科の年間手術総数は1,000例を超え、当院の基本理念である「患者中心主義のもと安心して安全な満足度の高い医療」のために必要な、より確かな診断、治療を行っている。結紮、縫合の基本手技から術前、術後管理の基礎と実際を学び、実力によっては執刀まで行う。本プログラムでは、埼玉医科大学国際医療センター内の他の外科系診療科と緊密な連携をとりながらプライマリ・ケアの実践に必要な外科的基本手技を身につけることができる。

2. 診療実績

本センターの消化器病センター消化器外科において、年間の1,000例以上の手術を行っています。

3. 診療・教育スタッフ

診療部長：山口 茂樹（教授）：下部消化管外科

診療部長：岡本 光順（教授）：肝胆膵外科

診療部長：櫻本 信一（教授）：上部消化管外科

副診療部長：病棟医長：合川 公康（准教授）：肝胆膵外科、移植外科

副診療部長：外来医長：佐藤 弘（准教授）：上部消化管外科

副診療部長：病棟医長：石井 利昌（講師）：下部消化管外科

小山 勇（教授）：肝胆膵外科、移植外科

ほか、助教15名

4. 研修責任者と臨床研修指導医、上級医（指導者）

研修責任者：山口 茂樹、岡本 光順、櫻本 信一

臨床研修指導医：山口 茂樹、岡本 光順、佐藤 弘、石井 利昌、合川 公康、岡田 克也、上野 陽介

上級医（指導者）：小山 勇、渡邊 幸博、近藤 宏佳、原 聖佳、宮脇 豊、荒谷 憲一、清水 浩紀、竹本 健一、中馬 基博、郡司 久、

5. 臨床研修プログラムの特色

2年目の選択では、外科の基本となる創傷治癒、縫合・結紮などの手術手技をより時間をかけて習得し、皮膚のみならず、腹壁の縫合、消化管の縫合の技術を習得する。外科の手技では、糸の結紮、皮膚の縫合の基礎技術を習得する。この手技の研修は当診療科で開発した研修医独自のテキストおよび実習用モデルが用意されている。この間に単純な小手術および侵襲の少ないヘルニアなどを術者として経験することができる。また腹腔鏡手術の研修としてブタを使用した手術トレーニングに参加することができる。

短期間の臨床研修で、消化管および肝胆膵のあらゆる外科疾患、消化器癌、急性腹症や外傷の救急疾患などを経験できる。

6. 経験目標・到達目標

一般目標（G10）

外科的疾患の手術適応、術前検査、周術期管理などを通して、全身をトータルに管理する臨床能力を身につけるとともに、プライマリ・ケアの実践に求められる外科的基本手技を体得する。

行動目標 (SB0s)

以下はすでに基本研修で掲げた目標は省略してある。当診療科に比較的特有と考えられる目標を示した。

1) 入院診療

- ・患者・家族や医療スタッフとの信頼関係を築きチーム医療を実践できる。
- ・上級医師の指導の下で、患者への必要な指示および処置ができる。
- ・指導医や専門医に適切にコンサルテーションできる。
- ・症例提示ができて、チーム医療のメンバーと討論ができる。
- ・診療計画を作成することができる。
- ・診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し、活用できる。
- ・インフォームド・コンセントの基本を理解できる。
- ・手術記録が適切に記載できる。
- ・手術標本を正しく取り扱うことができる。
- ・術前に必要な検査を選択でき、オーダーできる。
- ・手術に伴う危険因子を理解できる。
- ・腹部の身体所見をとることができる。
- ・急性腹症の鑑別診断および腹膜炎の診断ができる。
- ・輸血治療の正しい知識をもち、実践できる。
- ・適切な輸液管理ができる。
- ・術後の合併症に対する適切な治療法を理解し、実践できる。
- ・創傷の感染予防対策ができる。
- ・多臓器不全に対する治療法が理解できる。
- ・人工呼吸器の基礎的使用法を理解し、実践できる。
- ・集中管理におけるモニタリングの必要性とその意義が理解できる。
- ・術後の疼痛管理ができる。
- ・外科的な栄養管理の知識をもち、実践できる。
- ・蘇生法が適切に実践できる。

2) 外科的技術

- ・滅菌・無菌・消毒の概念を正しく理解できる。
- ・ガウンテクニック、手洗い、術野の消毒などの清潔操作が正しくできる。
- ・腹部超音波検査を自ら施行し、基本的な解剖が同定できる。
- ・消化管内視鏡検査の手技を理解し、主な疾患の基本的な読影ができる。
- ・中心静脈穿刺が指導医のもとで実践できる。
- ・局所麻酔法ができ、皮下の小さな腫瘤を摘出できる。
- ・皮膚・腹壁・消化管の縫合法を理解し、実践できる。
- ・腹腔穿刺、胸腔穿刺が指導医の下で実施できる。
- ・創傷治癒過程を正しく理解し、創傷の管理ができる。

3) 経験すべき病態・疾患

- ・食道・胃・十二指腸疾患（胃癌、食道癌、消化性潰瘍）
- ・小腸・大腸疾患（大腸癌、イレウス）
- ・肝胆膵疾患（肝癌、胆管癌、膵癌、肝硬変、閉塞性黄疸）
- ・横隔膜・腹壁・腹膜（腹膜炎、急性腹症、ヘルニア）
- ・緊急を要する病態（ショック、急性呼吸不全、急性心不全、心肺停止、急性消化管出血、急性腎不全、外傷）

4) 経験が望ましい病態・疾患

- ・痔核、痔瘻
- ・胆石症・総胆管結石

研修の方略

病棟は各臓器別チーム内で、シニアレジデント、ベッドサイド学生とともに実際の臨床経験を積むことになる。各研修医にはスタッフ医師が指導医として直接に指導に当たる。研修医は受け持ち医となるが、あくまでスタッフ医師が主治医となる。

火曜日、木曜日、金曜日の朝7時30分から、上部消化管、下部消化管、肝胆膵、それぞれの内科合同専門カンファレンスがあり、そこで入院患者、術前患者の治療方針の決定、術後患者の報告を行う。そのほか化学療法方針決定のためのカンファレンス（各週水曜）、病棟カンファレンス（週1回）、消化器病センター合併症カンファレンス（月1回）などが行われる。

なお、研修医は指導医に対し、いつでも治療方針について相談でき、すべての受け持ち患者の手術に手洗い助手として参画する。チーム内の他の患者に間接的に関わることも稀ではない。

外科の基本手技の習得を目的としてスキルラボでの実習を受けることもできる。腹腔鏡手術の研修と

してブタを使用した手術トレーニングに参加することもできる。

到達目標と評価表 (1ヶ月間研修した場合)

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 上級医師の指導の下で、患者への必要な指示および処置ができる。	()	()
2. 指導医や専門医に適切にコンサルテーションできる。	()	()
3. 症例提示ができて、チーム医療のメンバーと討論ができる。	()	()
4. 診療計画を作成することができる。	()	()
5. 診療ガイドラインやクリニカルパスを理解し、活用できる。	()	()
6. 手術記録が適切に記載できる。	()	()
7. 術前に必要な検査を選択でき、オーダーできる。	()	()
8. 手術に伴う危険因子を理解できる。	()	()
9. 腹部の身体所見をとることができる。	()	()
10. 適切な輸液管理ができる。	()	()
11. 術後の合併症に対する適切な治療法を理解し、実践できる。	()	()
12. 外科的な栄養管理の知識をもち、実践できる。	()	()
13. ガウンテクニック、手洗い、術野の消毒などの清潔操作が正しくできる。	()	()

到達目標と評価表 (2ヶ月目以上研修した場合)

【評価 A：可 B：不可】	自己評価	指導医評価
1. 中心静脈穿刺が指導医のもとで実践できる。	()	()
2. 局所麻酔法ができ、皮下の小さな腫瘤を摘出できる。	()	()
3. 皮膚・腹壁・消化管の縫合法を理解し、実践できる。	()	()
4. 腹腔穿刺、胸腔穿刺が指導医の下で実施できる。	()	()
5. 創傷治癒過程を正しく理解し、創傷の管理ができる。	()	()

7. 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
7:30		カンファレンス (上部)	カンファレンス (化学療法)	カンファレンス (下部)	カンファレンス (肝胆膵)	
8:00	回診	回診	回診	回診	回診	回診
8:30	手術	手術	手術	手術	手術	手術
13:00	手術	手術	手術	手術	手術	回診
18:00	回診	回診	回診	回診	回診	

8. 研修に関する問い合わせ先

〒350-1298 埼玉県日高市山根 1397-1

埼玉医科大学国際医療センター 包括的がんセンター

消化器外科 山口 茂樹 (診療部長、教授)、岡本 光順 (診療部長、教授)

TEL: 042-984-4111(代表)

FAX: 042-984-4741

E-mail: kokamoto@saitama-med.ac.jp (岡本)